



☆☆ニュースレター☆☆

第101号

発行日:2012. 8. 24
(since 2006.2.1)

このニュースレターはメールを登録している
正会員および賛助会員(除く:企業内会員)
ほか当団体が了承した希望者に、随時配信
しております。配信中止を希望のかたは右記
までご連絡ください。

NPO 法人・クライネスサービス

会長:稲垣 正彦

発行責任者:事務局長・眞柳 和俊

千葉県佐倉市宮ノ台3-2-2

npo-kleines-463@catv296.ne.jp

TEL/FAX:043-463-1337

会員寄稿 -23- ドキュメンタリー映画を観て

8月22日市民音楽ホールで映画「うたごころ」(監督:榛葉 健=しば・たけし)を鑑賞しました。

物語は…あるプロの歌手が昨年5月震災地宮城県南三陸町に向かった。歌を引っ提げて慰問のつもりだったのだろう。避難所で出会った少女は高校の合唱部員。(筆者は映画でその子が中国人であることを初めて知った)。日本で暮らす母親の新しい結婚相手である日本人男性が14歳の少女を自分の子供として引き寄せたという。退職金で買った志津川地区の家は津波で流されたが、別の場所にいた少女や、両親もなんとか助かる。その後“お父さん”の病気など困難に遭遇したが、娘はけな気にも『今度何か起こったら自分の命に代えても両親を守る・・・お母さんもずっと苦労してきたから』と言う。復興も進まないうちに、合唱部3年生の引退が迫っていた…。



今年5月末に復興支援のバス旅行で現地に行き目にした光景が瞼の裏に鮮明に蘇り、自然災害の恐ろしさに胸を打たれた。それとは別に私が驚いたのはボランティア有志の上映実行委員会が被災地支援にと地道な切符売りをした結果、遠くは県外からの参加者も含めホールがほぼ満員になったのを見たときです。佐倉の地元力を誇りに思うと同時に、復興に時間を要するとも、心ある人が多いのだから被災地もきっと立ち直ると確信した。映画の最後、主人公となった少女の短い言葉『故郷ふるさとっていいな』は印象的であった。将来、国際ボランティアの仕事を希望する彼女は日本に帰化できたというが、今の複雑な日中関係を考えると複雑な気持ちではある。第一部のテノール独唱会と映画は多くの参加者に少なからぬ感動を与えたことと思います。(小林弘司)

* 新入会員紹介 : 「中辻 昭二(なかつじ しょうじ)」(7/29 入会、ユーカリが丘3丁目在住)

～閑話～

警察と協働

8月7日午後の暑い盛り、非番でたまたま事務所に顔を出したときのこと。ユーカリが丘交番の顔なじみのお巡りさんが汗を掻きながら悲壮な表情で飛び込んできました。すわぁ事件か?と身構えたら、「ご相談があるのですが…」と丁重。話を伺ったら、井野中から放置自転車の引き取り依頼があり歩いてきたものの施錠されており、それを手(背中?)で運ぶのは至難の業なのでなんとか車を出してもらえないか、と。当方も二人そろったところなので、喜んでご協力をしたいと早速パトロール車を中学校に回し、後部スペースに積み込んだが、ドアが紐でも完全に閉められない状態。すると警察の方はうしろで身を屈めながら自転車とドアを抑えた姿勢で交番まで運ぶことになりました。この盗難自転車はまだ新しく、付いていた鑑札から所有者は飯山満(はさま=船橋市)在住とか。まさに警察と協働となったわけですが、自転車が見つかって持ち主の喜ぶ顔を想像すると心に気持ちよい涼風が吹いた一件ではありました。



事務局から会員のみなさまにお願い:

- ・設立から12年経過し活動に参加するメンバーの固定化が見られるようになりました。今後さらなる発展を期するためにも、知り合い・友人などへ入会を勧めていただくようご協力をお願いします。
- ・ニュースレターへの投寄稿、皆さまからの話題提供をお待ちしています。